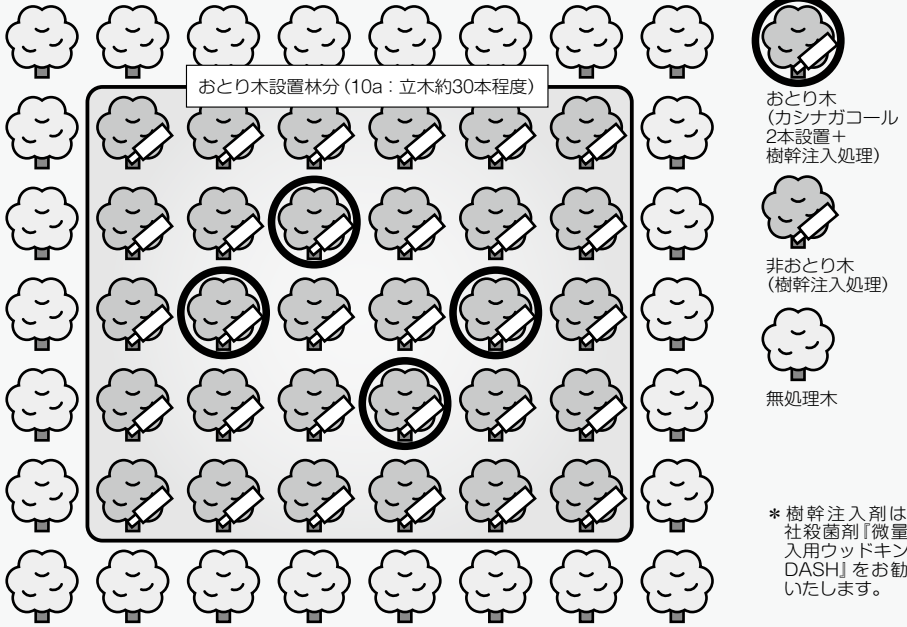
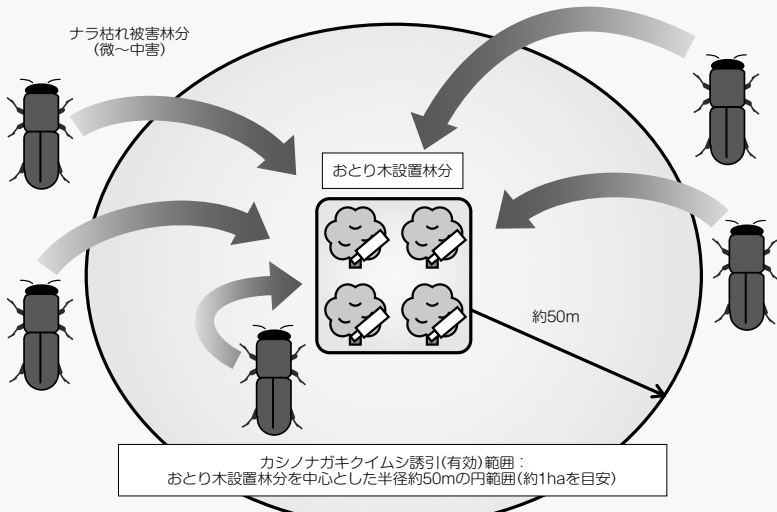


# カシナガコール技術情報

## おとり木法 設置例



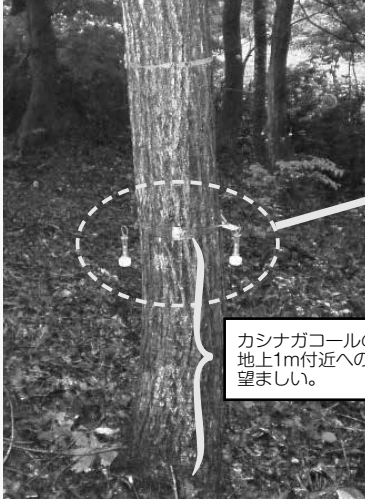
## おとり木法 有効範囲



\* 本例は平坦地における例であり、地形、気象条件等で有効範囲が異なる場合がある。  
\* おとり木林分設置時は各都道府県の試験機関の指導を受けることをお勧めいたします。

## おとり木の設置方法

おとり木(樹幹注入剤処理済み)



カシナガコール設置状況



おとり木への樹幹注入剤処理状況

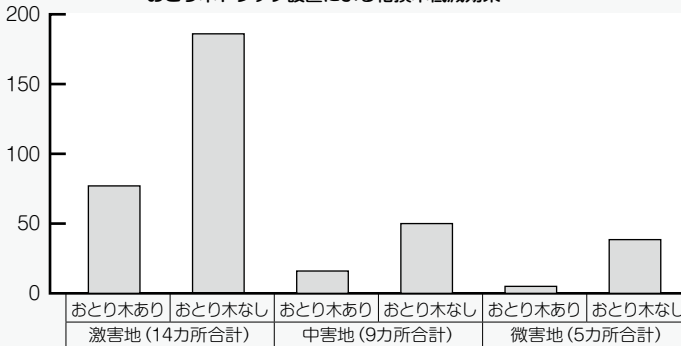


カシナガコールの設置は地上1m付近への設置が望ましい。

\* 薬剤は『ウッドキングSP』

## おとり木法の有効事例

おとり木トラップ設置による枯損木低減効果



■ 半径100m内の枯死本数

おとり木トラップ(カシナガコール使用)設置により枯損木が激害地で60%、中害地で70%、微害地で90%減少した。

区分	被害本数のめやす(1ha当たり)
未被害地	無し*
微害地	1~10本未満
中・激害地	10本以上

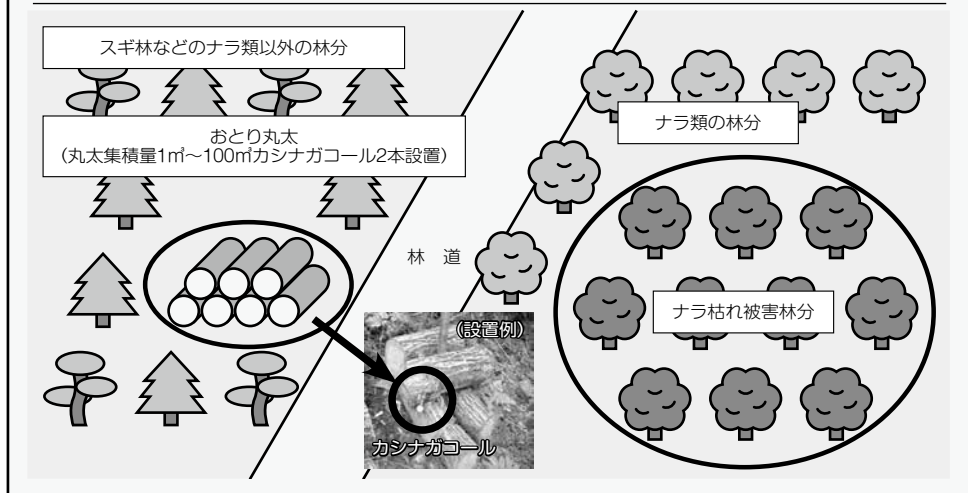
※この被害区分や本数のめやすは絶対的なものではありません。

## おとり丸太法 設置手順

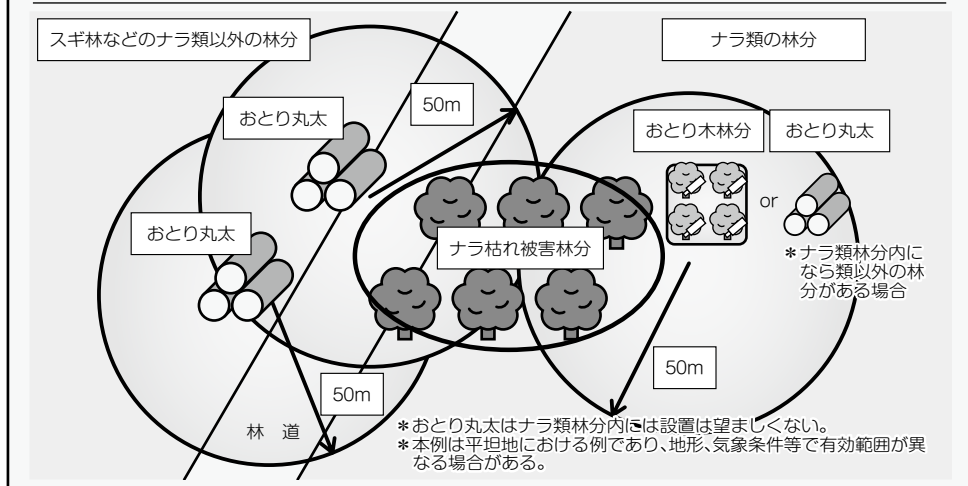
- おとり丸太法用丸太の準備
  - \*健全なナラ類を4月下旬~6月までに伐倒し集積し易い長さ(1~2m)に玉切りし、末口10cm以上の丸太を準備する。
- 丸太集積方法とフェロモン設置
  - \*5月下旬~6月中旬に、集積量として1m<sup>3</sup>~100m<sup>3</sup>を井桁組か、はい積として集積し、1集積当たり2個のカシナガコールを末口へ設置する。
- おとり丸太設置条件
  - \*スギ林分等ナラ類以外の林床を利用し、なるべく陽光が直接当たらないような場所で、丸太の乾燥を防ぎ林道等の周辺に配置する。
  - \*ナラ類林分への設置は被害の拡大、助長につながるため、避けることが望ましい。
  - \*使用後のおとり丸太は、カシノナガキクイムシ次世代成虫脱出前までに適切な防除を行う。
  - \*おとり丸太設置時期およびカシナガコール設置時期は、あくまでも目安で、地域により異なる為、本法導入時は各都道府県研究機関の指導を受けることをお勧めいたします。

# カシナガコール技術情報

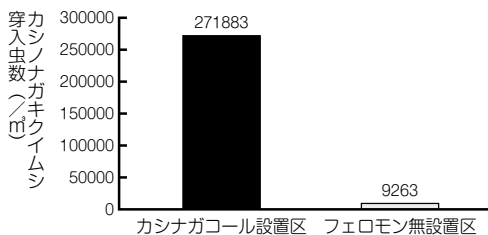
## おとり丸太法 設置例



## おとり丸太法 有効範囲



## おとり丸太法 有効事例



設置場所：  
山形県西置賜郡小国町大字  
小玉川地区(2010年)

中害、激害地区において20m<sup>3</sup>以上の丸太を林道脇に設置し、フェロモンを装着したのと無設置区とを比較すると、約30倍のカシナガコールを誘引することができた。